

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400468
法人名	株式会社ケア21
事業所名	たのしい家 小倉北
所在地	福岡県北九州市小倉北区中井5丁目3番11号
自己評価作成日	令和6年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和6年3月29日	評価結果確定日	令和6年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々活動的にメリハリのある生活を支援する。ご利用者皆様それぞれの出来る範囲で役割を持って頂き、活動等意欲の向上に努めている。
ご利用者本位という経営理念の元ご利用者様其々の尊厳を尊重し支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多様な福祉事業を全国展開する法人を母体とし、開設して8年目を迎える事業所である。住宅街の中に位置し、1階が小規模多機能型事業所、2・3階が2ユニットのグループホームとなる。町内会に加入し、コロナ禍後の地域交流の回復に向けて、また地域拠点としての役割を担うべくアプローチを重ねているところである。現在は家族や知人との面会や外出、外泊についても制限が緩和されており、大切な関係性の継続を支援している。法人内の連携を活かし、ICT活用による業務の効率化や情報連携、研修体制の確立、ノウハウの共有等を通じて、サービスの質やコンプライアンスの確保に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所でコロナが発生した事もあり、外出の頻度は少ないが、活動参加、計画を少しずつ検討している。	法人経営理念や各種憲章及び規定を定め、職員への周知と理解を図りながら、目指すべき方向性を共有するよう努めている。朝礼時には、コンプライアンスマニュアルを読み上げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	上記同様コロナの件もあり、交流はあまり出ていない	町内会に加入し、町内清掃活動には職員が参加している。校区のさくらまつりへの参加実績があり、事業所の夏祭りの再開も含め、双方向での交流を積み重ねていく意向である。年末の「火の用心」の夜回りを地域住民とともにやっている。	地域に根付いた活動を行うべく、アプローチを模索している状況である。運営推進会議や災害対策の場面を活用しながら、地域拠点としての新たな活動展開が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けての活動は徐々に増やし始めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員、民生委員、地域の方を招いて、地域への発信等の相談を行っている。	運営推進会議は、家族や自治会事務局長、民生委員、地域包括支援センター担当者の出席を得て、定期開催されている。地域の事例について相談を受けたり、事業所のバザー開催について助言を求める等、情報共有や意見交換を行いながら、協力関係づくりに取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時は相談行っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター担当者の出席を得ている。感染対策や空室状況に関する情報共有はもとより、オレンジカフェ開催に向けた情報収集等にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては年2回以上は研修を実施し、不適切な行為をわからないまま行うことの内容周知している。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、年に複数回の研修実施やミーティングの活用等を通じて職員の意識を高め、より良いケアの実践に向けた取り組みを継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を中心に周知するとともにスタッフに通報義務の周知を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度活用しているが、詳細までを学ぶところまでは至っていない	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、現在活用事例はないが、法人グループや併設事業所での支援事例を共有することが可能である。資料を準備し必要時には情報提供が行えるよう職員間で回覧している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは誤解の無いよう普段からのコミュニケーションをしっかりとっている。	運営推進会議やイベント開催に関する案内を行う他、定期的な通信の発行や手紙により、日常の様子を伝えている。感染対策に留意しながら、コロナ禍で制限せざるを得なかった面会や外出、外泊等を再開している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段のコミュニケーションやミーティング等で、スタッフの意見を吸い上げ改善に努める様にはしている。	事業所の全体会議や各ユニット介護を毎月開催しており、特に接遇面に関する話し合いを重要視している。管理者や各職員の座席配置や距離感を工夫しながら、意見が出やすい会議となるよう工夫されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面の反映は事業所単位では難しいが、労働時間に関しては業務終了後はすぐに帰宅して頂く様努めている。現在あまりできていないが個人面談を定期的に行っていく計画。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢等とは関係なく採用させていただいている。採用後はできるだけ声掛け等の頻度を多くし不快なく働いていただけるよう配慮している。	面接時にはチェックシートも活用しながら、応募者の介護感を重要視した採用を行っている。法人として、部門や職種に応じた研修体制を確立しており、職員のスキルアップをサービスの質の確保につなげる取り組みがある。イベント開催や室内装飾等に職員の得意分野を発揮する場面がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や、気が付いた時の声掛けにて人権啓発を行っている。	全職員を対象として、人権及び虐待・身体拘束防止、接遇マナー、コンプライアンス、メンタルヘルス、認知症ケア等の研修機会を設けている。ミーティングでも議題とし、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に評価する人事制度があり、その時に面談も行い一人ひとりのケアの力量、考え方を把握に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連携は増えていっている。 ケア方法に関して等の共有を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントなどで事前情報を理解したうえでご本人の面談だったり状況の把握に努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時にご家族の主訴をしっかりと聞き、将来の意向も把握し関係づくりに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態に応じて、他サービス、又併設に小規模多機能へのご案内をしたりしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護という意識は会議などでも共有できるよう動いている。そのうえで基本的には出来ない事を支援、日常生活においてともに生活するということを意識、心がけている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的にはコミュニケーションを取りながら関係を築き、あとは報連相を細やかに行うことでより関係性が築けている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状厳しいが、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう可能な限り努めている	コロナ禍で制限せざるを得なかった面会や外出、外泊等を再開している。書信のやり取りや携帯電話使用のサポート等、馴染みの関係性の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活において日々一緒にせいかつされるので関わりは毎日あり、うまく関係性が続く様配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご家族のつながりもあり、本人の状況も把握している方もいる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全て要望を受け入れる事は難しい部分もあるが、介護の基本としてご利用者本位で支援している。	本人や家族との日常の会話の中で、生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。個別の「快」や「不快」の感情を大切に受け止めながら、本人本位のアプローチを検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて把握につとめている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人評価し、残存機能、出来る事の把握に努め共有する。職員間で支援方法を検討している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議や担当者会議で話し合うことがメインになるがケアの統一を意識して介護計画を作成している。	本人、家族の意向を踏まえ、毎月の会議でケアの在り方を検討している。法人独自のアセスメントシートを活用や毎月のモニタリング等を通じて、現状の確認と介護計画の見直しの必要性について検討されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や毎日の申し送りで情報共有したうえでCMが介護計画見直しを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生活においてニーズが生まれ、状況はADL等の変化に応じて対応を検討している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は十分に出来ていないが、出来る限り協働出来る様努めている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族のご意向の共有、気付きを大切に状況変化があれば定期的に、医療と連携をはかっている。	入居契約時に、本人・家族の希望するかかりつけ医について確認している。協力医療機関による訪問診療が定期的実施されており、その他の受診については家族との連携を図っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問介護や往診も含め情報収集や助言をもらいながら支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	都度、状況報告は看護師、相談員の方を中心にさせて頂き、退院調整をしている。		
35		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族のご意向も把握している。以降の変化もあるので、都度相談、ご説明をさせて頂いている。	入居契約時に、重度化や終末期に向けた事業所としての方針や体制を説明し同意を得ている。状況の変化に伴い、その都度家族や主治医と話し合い、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修プログラムに緊急時の研修を受けており又、併設事業所の看護師の元、勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP作成し訓練を定期的には実施しているが、地域の方の参加ができていないので、課題である。	各種災害対応マニュアルを整備し、昼夜の時間帯や火災・地震等の想定して避難訓練を実施している。2・3階部分に位置する事業所であり、車いすのまま階段避難を実際に体験している。次回はマットレスを使用する予定。年末の「火の用心」の夜回りに参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇面での課題は重要であるので、定期的に声掛け、研修を行っている。	毎月の職員会議の中では、接遇について取り上げる機会も多く、職員の意識向上に取り組んでいる。個別の居場所の確保や一人で過ごしたい時間の尊重に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の支援への話し合いは行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先の介護をしない様定期的に声掛け、ミーティングにて話し合っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけご本人の意向に沿ったものを身に付けて頂けるよう、支援に努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事後の食器拭きを中心に、出来る事と出来ない事を見極めながら手伝っていただいている。	栄養管理された調理済食材を活用し、後片付け等に入居者の方が力を発揮する場面がある。季節行事や誕生日等のイベント時には、「お鍋レク」や「おやきレク」を企画し、入居者の方々も調理に参加する機会がある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握し、食事量、水分量に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理体制加算取得。先生や衛生士の助言の元支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの理解に努め、必要性がある場合には検討行い、自立に向けた支援に努めている。	個別の排泄パターンや排泄動作の把握に努め、トイレでの排泄を基本として声掛けや誘導を行っている。日常生活の中での立ち座りや立位保持等の場面を意識しながら、機能維持に向けた意識を高めている。軽運動や腸活体操を取り入れ、便秘予防に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握に努め、運動や飲食物等、都度応じた提供を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状況に応じ、入浴日を変更し浴槽にしっかりと浸かれる時間を確保している。	日常的に入浴を準備し、希望や体調、状況等に応じた柔軟な対応に努めている。状況に応じて職員2名での介助を行い、季節に応じた柚子湯の提供や七夕には笹を飾る等、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠の時間、感覚は皆さま異なるが、日頃の対応にて安心していただけるよう努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時処方された場合の注意店等共有、理解している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割がやりがい、生きがいにもつながってくるので、食事以外にも楽しみを見つけることが出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出頻度は減ったが、駐車場に下りてきての日向ぼっこを行い季節を感じられるよう支援に努めている。	街中の住環境ではあるが、事業所の駐車場や近隣の公園での外気浴を行ったり、県営中央公園や高塔山に季節の花見(桜・紫陽花)に帰る機会もある。菜園では、キュウリやトマト、ネギ等の生育や収穫を楽しむ機会もある。昨年までは移動スーパーの来訪があり、買い物する機会もあった。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていないが、預かり金で移動スーパーなどでお買い物をする事もあっている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話、ご家族とコミュニケーションが取れる環境を作れるよう支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生面い気を付け、行事などでの創作等で季節を感じて頂けるよう支援に努めている。	3階建ての2・3階部分に位置し、採光も良く清潔感がある。季節に応じた創作活動の作品がさりげなく飾られ、テーブルやソファ等、それぞれの方々の居場所の確保にも配慮されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで皆様で過ごされることが多く、気の合った方の席を近くにするなど支援に努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染み深い物がある事が安心につながるの、その点をご家族と連携をはかりながら支援している。	タンスやテレビ、仏壇、家族の写真等が持ち込まれ、配置や動線の確保に配慮しながら、居心地よく安心して過ごせるように配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備や出来る事理解、できない事の把握をすることで、より安心した生活が出来る様努めている。		